

でも何故か君がそばにいる

作詞・作曲 小竹一臣

どこまでも遠くに
君となら歩いて行けると信じてた

凍える吐息さえも
触れ合った指先の温もりが暖かくて

瞳(め)を閉じればいつでも浮かんでくるのさ
なぜか急に遠くなった君の横顔

でもなぜか君が どこかそばにいる
そんな気にさせる蒼い 月の夜だから

悪戯に呼びかけたら君に聞こえそうで
それぞれの未来が 還らずに走って行くのに

遠ざかる影に 声も届かずに
涙の匂いにまみれ 見上げた夜空は

今はただ痛みを抱いて 洗い流してく
遥かな祈りと 急ぐ…
想いは君へと 急ぐ

(間奏)

この街で独り 振り返るたびに
似てる筈もない誰か 探し求めても

今はただ 涙照らす 夜に溶けてゆく
遥かな祈りと 急ぐ…
想いは君へと 急ぐ